

# 養育院の初代院長 2つのお墓

宮本孝一  
老年学情報センター

櫻園通信 60 令和3年1月  
東京都健康長寿医療センター  
養育院・渋沢記念コーナー  
連絡先: 老年学情報センター



東京都台東区谷中には約七千のお墓が立つ広大な墓地があります。

この墓地は、東京都立谷中墓地・天王寺墓地・寛永寺墓地の三つの墓地を併せたものです。著名人のお墓もたくさんあります。春には桜のトンネルができる桜の名所です。

寛永寺墓地の区域には、最後の將軍徳川慶喜のお墓があります。また隣接する了侘(りょうごん)寺墓地には、明治初めからの大正時代はじめまでの養育院収容者約三千八百人

が眠る「養育院合祀塚」があります。(参考 桜園通信十六)

広大な墓地の中央の広い道は、江戸時代はお寺の参道で、そこで催される富くじが人気でした。参道には富くじを楽しむ茶屋が立ち並んでいました。

この二つの写真はどちらも谷中霊園で撮影した**養育院初代院長のお墓**です。

上のお墓には「青洲渋沢栄一墓」と彫られています。



日本資本主義の父であり、養育院院長を亡くなるまで約五十年続けた渋沢栄一のお墓です。

青洲(せいえん)というのは渋沢栄一の号(本名とは別に使う名前)で、渋沢が十八歳の時、いとこで渋沢の学問の先生であった尾高惇忠(おだかあつただ)に名づけられました。

青洲の由来は、渋沢の実家が「淵上小屋」と呼ばれていて、その家のそばに淵があったことにちなんだものといわれます。



もう一つの「初代養育院院長」のお墓は自然石の形を活かした、ユニークなお墓です。

「飯田直之丞（丞）墓」と刻まれています」。



文書には、明治六年一月に「会議所（江戸の救貧基金七分積金を管理するために大久保一翁府知事が設立した組織）」より飯田直之丞が養育院院長に任命された記録が残っています。

その年、渋沢栄一は五月まで大蔵省に勤務し、その後辞職して実業家の道に進みます。養育院運営には関わっていません。

渋沢栄一が間接的に養育院に関わりはじめたのは翌明治七年に会議所の共有金（七分積金）取締に任命されてからです。養育院は会議所の付属施設でした。

会議所が明治九年に廃止され、養育院が東京府の管轄になるとき、渋沢栄一は養育院の代表者（事務長）に就任。さらに、明治十二年、養育院の組織再編で事務長職が院長と改称され、渋沢栄一がそのまま院長に就きました。

“初代院長渋沢栄一”のはじまりです。

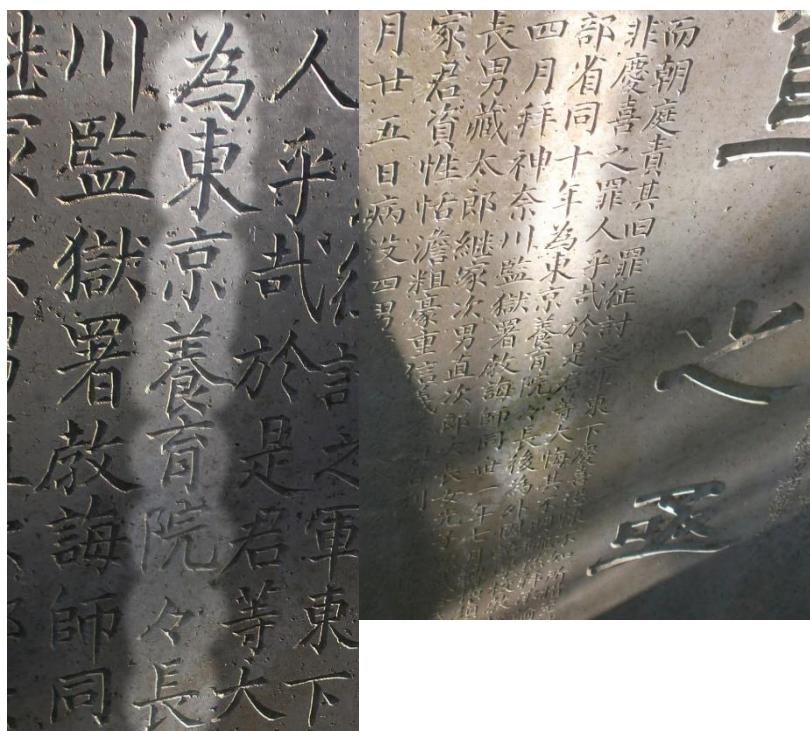
渋沢栄一が養育院事務長、院長となる間、飯田直之丞も養育院掛・養育院副幹事として養育院経営を担っていました。飯田が院長でなくなったのは渋沢が事務長になったときです。それまでの院長職が廃止され、飯田は養育院掛という役職になりました。（参考 桜園通信 二二）

飯田直之丞は養育院史であまり語られることのない“幻の初代院長”です。

さて、飯田直之丞の墓には生涯の経歴がびっしりと彫られています。ここに「明治五年出仕文部省、同十年為東京養育院々長」という文字を読み取ることができます。

明治十年に養育院院長になった？  
飯田直之丞院長は明治六年から九年までです。

なぜ明治十年と刻まれたのかはわかりません。謎です。



墓地の写真は、宮本撮影（2020年1月）  
川の写真はフリー画像を使用